

第 45 回和歌山臨床細胞学会 総会・学術集会

-プログラム-

令和 2 年 2 月 1 日(土)
(13:00~17:30)

日本赤十字社和歌山医療センター
多目的ホール
和歌山市小松原通り四丁目 20 番地
(TEL 073-422-4171)

学術集会長 真谷 亜衣子
(日本赤十字社和歌山医療センター 病理診断科部)

第45回学術集会開催にあたって

第45回学術集会長 真谷 亜衣子
(日本赤十字社和歌山医療センター 病理診断科部)

この度、第45回和歌山臨床細胞学会学術集会長を務めさせていただくことになりました。

開催にあたり、ご指導ご協力をいただきました会員の皆様に心より感謝申し上げます。

今回は、元号が令和になってから初めての学術集会となります。その記念すべき学術集会の特別講演には、慶應義塾大学病院病理診断科 准教授・診療科部長 亀山香織先生をお招きして、「甲状腺の病理 –最近の話題–」と題してご講演いただきます。新しく改訂された甲状腺癌取り扱い規約の解説や細胞診の報告様式、また日頃から悩ましい細胞の見方についてご教授いただけるものと期待しております。教育講演には、杏林大学保健学部臨床検査技術学科 准教授 大河戸光章先生をお招きして、「HPVの網羅的解析から見えてきたHPV型と子宮頸部病変との関係」と題してご講演いただきます。HPVと子宮頸癌の関係が明らかになって久しいですが、今後の検診のあり方、HPVの新たな知見などをご講演いただけるものと楽しみにしております。

本学術集会では、数年ぶりに一般演題を取り入れました。若手の方に地方学会で経験を積んでいただき、大きな学会へと飛躍していただきたい、との思いであらかじめ演者を指定させていただきました。また、例年同様スライドカンファレンスも2題予定しております。一般演題、スライドカンファレンスともに活発な討論をしていただければと思います。

毎年恒例のフォトコンテストもご用意しております。写真のきれいさとともにタイトルにも工夫が凝らされており、お楽しみいただければと思います。ぜひ投票をお忘れなきようお願い申し上げます。

学術集会の後には懇親会を予定しております。ぜひご参加いただき、さらなる交流を深めていただければ幸いに存じます。

多くの会員の皆様にご参加いただき、今後役に立つ実り多き学術集会となりますようお願いしております。

プログラム

総合司会：田中 真理（和歌山労災病院・中央検査部）

【開会の辞】（13:00～13:05）

学術集会長 真谷 亜衣子（日本赤十字社和歌山医療センター・病理診断科部 病理課長）

【総 会】（13:05～13:45）

(1) 第45回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会について報告

第45回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会 会長 吉田 恵

(2) 2019年度事業報告・2020年度事業予定 和歌山臨床細胞学会 理事 土居 淳子

(3) 2019年度会計報告・2020年度予算案 和歌山臨床細胞学会 理事 田中 真理

(4) 理事会報告 和歌山臨床細胞学会 会長 村田 晋一

(5) 新・細胞診専門医、細胞検査士の紹介 和歌山臨床細胞学会 会長 村田 晋一

(6) 和歌山臨床細胞学会ロゴマーク募集について 和歌山臨床細胞学会 会長 村田 晋一

（休憩 5 分）

【学 術 集 会】

① 教育講演（13:50～14:35）

座長：真谷 亜衣子（日本赤十字社和歌山医療センター・病理診断科部）

「HPVの網羅的解析から見えてきた HPV 型と子宮頸部病変との関係」

杏林大学保健学部臨床検査技術学科 准教授

大河戸 光章 先生

（休憩 10 分）

② 一般演題（14:45～15:15）

座長：紙谷 知子（公立那賀病院・臨床検査科）

吉井 輝子（和歌山県立医科大学附属病院・中央検査部）

(1) 「術前細胞診にて確定診断に至らなかった甲状腺乳頭癌症例の検討」

- 淡路 有恵¹⁾、木下 勇一¹⁾、永井 宏和¹⁾、吉井 輝子¹⁾、杉山 絵美¹⁾、
武内 綾菜¹⁾、細 枝里子¹⁾、松崎 生笛²⁾、三笠 友理奈²⁾、岩元 竜太²⁾、
高橋 祐一²⁾、岩橋 吉史²⁾、割栢 健史²⁾、小島 史好²⁾、村田 晋一²⁾

1)和歌山県立医科大学附属病院・中央検査部病理診断部門

2)和歌山県立医科大学・人体病理学教室/病理診断科

(2) 「液状化細胞診のメリット～婦人科を中心に～」

○笠松 功、杉野 翔太、栗山 行央、峰 高義、竹中 正人、尾崎 敬
紀南病院・中央臨床検査部

(3) 「溶血剤が細胞に与える影響」

○溝畑 知穂、阪田 幸範、奥村 寿崇、真谷 亜衣子、中山 理祐子、小野 一雄
日本赤十字社和歌山医療センター・病理診断科部

(休憩 5 分)

③ スライドカンファレンス (15:20～16:10)

座長：岩橋 吉史 (和歌山県立医科大学・人体病理学教室/病理診断科)
栗山 行央 (紀南病院・中央臨床検査部)

(1) 子宮頸部 出題者：稲垣 充也 (公立那賀病院・臨床検査科)
回答者：高橋 祐一 (和歌山県立医科大学・人体病理学教室/病理診断科)

(2) 甲状腺 出題者：田中 真理 (和歌山労災病院・中央検査部)
回答者：杉野 翔太 (紀南病院・中央臨床検査部)

(休憩 10 分)

④ 特別講演 (16:20～17:20)

共催：ホロジックジャパン株式会社

座長：小島 史好 (和歌山県立医科大学・人体病理学教室/病理診断科)

「甲状腺の病理 – 最近の話題 –」

慶應義塾大学病院病理診断科 准教授・診療科部長

亀山 香織 先生

【次期学術集会長挨拶】 (17:20～17:25)

小島 史好 (和歌山県立医科大学・人体病理学教室/病理診断科 講師)

【閉会の辞】 (17:25～17:30) 和歌山臨床細胞学会 会長 村田 晋一

懇親会 (18:15～)

O.B.倶楽部

〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上 2 - 5 - 4 1

電話：073-423-0311

会場後方にて

- ドリンクサービスを用意しておりますので(無料)、ご自由にご利用ください。
(提供：松浪硝子工業株式会社)
- 顕微鏡を用意しております。スライドカンファレンスの症例を鏡検していただけます。

■ 受付

- ・会場前で11時30分から受付を開始します。
- ・参加費は2,000円、懇親会費は3,000円です。
- ・すでに会員の方は年会費(医師 3,000円、医師以外2,000円)の受付もしております。
- ・新入会も受付しております(年会費をお支払いください)。
- ・日本医師会生涯教育講座参加証、日本産婦人科医会研修参加証、日本産婦人科学会専門医制度研修単位を発行いたします。ご参加いただける産婦人科の先生には「e 医学会カード」をご持参くださいますようお願い申し上げます。
- ・CTの方は、クレジットはJSC10点、IAC 4点です。

■ 発表者へのご案内

➤ テータの準備

- ・演題発表と質疑は以下の時間でお願いします。

教育講演：発表時間40分、質疑5分

特別講演：発表時間55分、質疑5分

スライドカンファレンス：スライドのサイズは「4:3(標準)」でお願いいたします。

症例呈示1分、回答者回答3分、会場回答6分、出題者解説7分、討論8分

一般演題：発表時間7分、質疑3分

- ・パソコンプレゼンテーション(プロジェクター1面)での発表に限らせていただきます。
- ・会場に発表用のWindowsパソコンを準備します。(Windows10、office 2019使用予定です。)
- ・テータはPowerPointで作成ください。
- ・文字化けを防ぐため、念のためフォントは下記のものをご使用ください。
日本語：MSゴシック、MSPゴシック、MS明朝、MSP明朝
英語：Arial, Century, Century Gothic, Times New Roman
- ・ご自身のPC (Mac、Windows)をお使い頂くことも可能です。動画を含むご発表の場合、再生エラーを防ぐためにご自身のノートパソコンでのご発表をお願い致します。ご自身のPCをお使いになる場合は、接続は各自の責任でお願い致します。
特にMacの場合はご自身のパソコンをご用意いただき「コネクタ」の準備をよろしくお願い致します。
- ・発表テータは、ファイル名を「演題番号 氏名」にしてください。

➤ PC受付(教育講演、特別講演の演者の先生方)

- ・発表の60分前までに受付をお願い致します。
- ・発表テータは、USBメモリーでお持ちください。USBメモリーでお持ちいただいたファイルを、当方の発表用PCにコピーさせていただきます。(終了後確実に削除致します。)

■ 懇親会のご案内

懇親会を18時15分～O.B.倶楽部で行います。

ふるってご参加ください。

和歌山臨床細胞学会登録用 E メールアドレス送信のお願い。

和歌山臨床細胞学会では、連絡は E メールで送らせていただきます。
wsc@wakayama-med.ac.jp まで登録する E メールアドレス、氏名を
送ってくださるようお願いいたします。(右の QR コードからも読み取れます)



抄録集

バーチャルスライドに関して
スライドカンファレンスの症例を閲覧できます。

【閲覧方法】

1. 以下のサイトにアクセスしていただき、

Username、Password とともに「wsccl」(すべて小文字)を打ち込んでください。

<http://w-hupath.wakayama-med.ac.jp/> (右上の QR コードからも読み取れます)

2. 「Browse Images」をクリックしてください。

3. 「和歌山臨床細胞学会」をクリックしてください。

4. 「WSCC45」をクリックしてください。

5. バーチャルスライドをクリックして観察してください。

※レイヤーは「Ctrl」を押しながらマウスのホイールを回していただくか、
左上の「0 μm」の表示をクリックすると変わります。



閲覧

【事前投票方法】

以下のサイトにアクセスしていただき、投票をお願いします。

<https://forms.gle/KNfeZAjmJ6Z7w6v28>

(右の QR コードからも読み取れます)



投票

教育講演

座長：真谷 亜衣子（日本赤十字社和歌山医療センター 病理診断科部）

「HPV の網羅的解析から見えてきた HPV 型と子宮頸部病変との関係」

杏林大学保健学部臨床検査技術学科 准教授
大河戸 光章 先生

欧米において HPV 検査は、婦人科細胞診の primary 検診として独立した役目を担うものと認識されている。しかし、日本では一次検診に細胞診検査が推奨されており、HPV 検査は細胞診判定の補助や指導指針の管理に用いられている。2018 年、国立がんセンターより子宮頸がん検診の改訂案が示され、HPV 検査による primary 検診が B ランク（推奨）に位置付けられた。感度が高い HPV 検査は検診の間隔を延長できるメリット有し、費用対効果の点で優れていることから検診方法の見直しは今後さらに加速すると考えられる。

HPV 検査が細胞診に代わって一次検診法となった場合の問題点として、① HPV 検査陽性患者の細胞診判定にバイアスが生じる② 不必要な生検の増加③ 細胞検査士が CIN2+ の検出感度を下げない能力が問われる、などが挙げられている。これらから推測されることは、HPV primary 検診が取り入れられることによって、細胞検査士自身の持つべきスキルは“上皮内病変を拾い上げること”から“HPV 検査陽性患者のトリアージをすること”へ変化させなくてはならないということである。

本講演では、HPV primary 検診における細胞診の立ち位置、懸念されること、細胞検査士に求められることを説明する。さらに、現在私たちが取り組んでいる子宮頸部擦過細胞材料中の HPV 型を網羅的解析した結果から、誰もが知る異型細胞であるコイロサイトが特定の HPV 型による細胞変化である可能性を示したい。

ご略歴	1993年 3月 北里大学衛生学部衛生技術学科卒業 1995年 3月 杏林大学大学院保健学研究科博士前期課程修了 1995年 4月 杏林大学保健学部助教 2013年 10月 杏林大学保健学部講師 2018年 4月 杏林大学保健学部准教授
所属学会	日本臨床細胞学会 日本性感染症学会, 日本エイズ学会

特別講演

座長: 小島 史好 (和歌山県立医科大学 人体病理学教室/病理診断科)

「甲状腺の病理 ー最近の話題ー」

慶應義塾大学病院病理診断科 准教授・診療科部長
亀山 香織 先生

2017年に内分泌腫瘍のWHO分類が改定されました。大きな変更の一つは濾胞構造を示す腫瘍の分類が細かくなったことがあります。Other encapsulated follicular-patterned thyroid tumours という枠組みで、Follicular tumour of uncertain malignant potential (FT-UMT)、Well-differentiated tumour of uncertain malignant potential (WDT-UMP)、Non-invasive follicular thyroid neoplasm with papillary-like nuclear features (NIFTP) といったこれまでの疾患の中間的な概念です。この12月に改訂された甲状腺癌取り扱い規約第8版ではこれを採用していません。低分化癌の定義もWHOでは新しくなりました。また、乳頭癌の亜型として、今回の規約ではホブネイル亜型を新たに加え、8つの亜型となりました。

甲状腺細胞診の報告様式につきましては、取り扱い規約ではアメリカのベセスダ分類を踏襲した分類を少し改定したものを用いていますが、これの解説に加えて我々が伊藤病院で行っている報告方法も紹介します。

最後に、常に甲状腺細胞診で問題となっています、良性と濾胞性腫瘍疑いの鑑別法につき、多数の例を挙げて説明したいと思っています。

ご略歴	<p>昭和56年 3月 慶應義塾高等学校卒業</p> <p>昭和63年 3月 産業医科大学卒業</p> <p>昭和63年 4月 慶應義塾大学大学院医学研究科博士課程入学</p> <p>平成 4年 4月 慶應義塾大学助手 (医学部病理学)</p> <p>平成 8年 4月 慶應義塾大学助手 (医学部病理診断部)</p> <p>平成13年 4月 慶應義塾大学専任講師 (医学部病理診断部)</p> <p>平成25年 5月 慶應義塾大学病理診断科部長および 慶應義塾大学准教授 (医学部病理診断部)</p>
所属学会	<p>日本病理学会：評議員、英文誌刊行委員、コンサルテーションボード</p> <p>日本病理学会関東支部：学術担当幹事</p> <p>日本臨床細胞学会</p> <p>日本甲状腺病理学会：理事</p> <p>日本内分泌外科学会：理事、甲状腺病理委員（副委員長）</p>

一般演題

座長：紙谷 知子（公立那賀病院 臨床検査科）

吉井 輝子（和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部）

(1) 「術前細胞診にて確定診断に至らなかった甲状腺乳頭癌症例の検討」

○淡路 有恵¹⁾、木下 勇一¹⁾、永井 宏和¹⁾、吉井 輝子¹⁾、杉山 絵美¹⁾、
武内 綾菜¹⁾、細 枝里子¹⁾、松崎 生笛²⁾、三笠 友理奈²⁾、岩元 竜太²⁾、
高橋 祐一²⁾、岩橋 吉史²⁾、割栢 健史²⁾、小島 史好²⁾、村田 晋一²⁾

1)和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部病理診断部門

2)和歌山県立医科大学 人体病理学教室/病理診断科

【はじめに】甲状腺癌において最も頻度の高い乳頭癌の確定診断には、細胞診が有用である。細胞診による正診率は一般的に高いとされているが、確定診断に至らない例も存在する。今回我々は、術前細胞診にて確定診断に至らなかった乳頭癌症例についてその原因の解析を行った。

【対象と方法】対象は、当院にて2017年～2019年の間で手術検体の組織診にて確定診断された乳頭癌症例の中で、術前の細胞診では確定診断に至らず Class II－IVと判定された44症例（乳頭癌非確定症例）である。なお、結節性過形成が混在している症例は除外した。また、乳頭癌 Class Vと診断可能であった10症例（乳頭癌確定症例）および濾胞性腫瘍と結節性過形成の濾胞性病変10例をコントロール症例とした。方法は、44症例について、細胞量・背景所見・核所見・細胞質所見・構造所見の6つのカテゴリーについて検討した。

【結果】乳頭癌非確定症例では、細胞量が少なく、核密度・重積性集塊・卵円形核・N/C比・核溝・核内細胞質封入体・すりガラス状クロマチンの出現率は、乳頭癌確定症例よりも低いものの、濾胞性病変症例よりも高かった。また、乳頭癌非確定症例では、濾胞性腫瘍や結節性過形成の症例よりも孤立性細胞の出現率が高く、濾胞性腫瘍症例よりも小濾胞集塊やN/C比増大は低く、結節性過形成症例よりもシート状集塊やコロイド出現は低かった。

【考察】乳頭癌の確定診断に至らなかった原因として、細胞量が少ないことや核溝、核内細胞質封入体、すりガラス状クロマチンの3つの特徴的乳頭癌核所見の出現率が低かった事が考えられる。特にすりガラス状クロマチンの判定には主観的要因が大きく、核溝は結節性過形成でも見られることから、核内封入体が明瞭でない場合は確定診断を躊躇することが少なくないと思われる。乳頭癌の正診率の向上には、臨床医に細胞量を増やすための工夫を求めるとともに、特に孤立性細胞が多いときには特徴的乳頭癌核所見を念頭においた詳細な細胞像の観察が重要であると考えられた。

一般演題

座長：紙谷 知子（公立那賀病院 臨床検査科）

吉井 輝子（和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部）

(2) 「液状化細胞診のメリット～婦人科を中心に～」

○笠松 功、杉野 翔太、栗山 行央、峰 高義、竹中 正人、尾崎 敬
紀南病院 中央臨床検査部

【はじめに】従来法では、臨床医が細胞採取から固定までを行っていたが、液状化細胞診(以下 LBC 法)では臨床医は細胞採取と細胞浮遊液の作製を行うのみになった。したがって、LBC 法では標本の作製が均一化・標準化されることになり、その結果として不適正標本が減少することが期待されている。当院では、2017 年 8 月より子宮頸部および膣部擦過細胞診を Cell prep[®](ロシユ)を用いた LBC 法に変更した。今回我々は従来法と LBC 法の細胞所見を比較し、LBC 法のメリットについて考察した。

【方法】当院で実施した子宮頸部および膣部擦過細胞診について、従来法と LBC 法を併用していた時期の標本を用いて細胞像を比較した。

【結果】従来法と LBC 法を比較して検鏡範囲の縮小と出現細胞の重なり減少により個々の細胞が観察しやすくなった。また、細胞が均一に塗抹されるので、深度をほぼ一定に保ったまま検鏡することができた。扁平上皮細胞は従来法と比較しても大きな違いはなかった。しかし、腺系細胞はつぶれてしまい従来法との違いが大きかった。

【考察】LBC 法に変更して、検鏡範囲の縮小から標本一枚に対しての検鏡時間が短くなったと思われる。腺系細胞に関しては、検鏡に苦慮することもあり標本作製方法を検討する必要性が感じられた。

一般演題

座長：紙谷 知子（公立那賀病院 臨床検査科）

吉井 輝子（和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部）

(3)「溶血剤が細胞に与える影響」

○溝畑 知穂、阪田 幸範、奥村 寿崇、真谷 亜衣子、中山 理祐子、小野 一雄

日本赤十字社和歌山医療センター 病理診断科部

【はじめに】細胞診の検体処理は、細胞診断において重要であり、検体の性状に合わせて処理方法を変える必要がある。当院では、2017年から体腔液で血液成分の多い検体は、通常標本と同時に溶血標本を作製している。しかし、溶血剤使用により細胞変性を引き起こすことが示唆されている。そこで今回、体腔液における溶血剤の細胞への影響を検討した。

【対象】2017年1月～2019年10月までの溶血処理を行った体腔液のうち、ClassⅢ以上であった17例。

【方法】3000rpm5分遠心後バフィーコートより引きガラス法にて標本1枚作製①:通常標本)。残りの沈渣に溶血剤(ロシュ・ダイアグノスティックス社)を沈渣の約5倍量添加し、10分放置。再度、3000rpm5分遠心し、沈渣より引きガラス法にて標本1枚作製②:溶血標本)し、両者の細胞所見を比較した。

【結果】溶血剤による異型細胞の増加は13例あり、その中で偽陰性を回避することが出来たのは4例であった。また、欠点として細胞変性が16例、背景の好中球やリンパ球の増加が6例に見られた。17例中2例に細胞出現形態に違いがあり、通常標本では重積性かつ細胞密度の高い異型細胞集塊が見られていたが、溶血標本では平面的で結合性疎となり、散在傾向であった。

【まとめ】溶血剤の大きな利点は、偽陰性を回避出来ることである。一方、欠点は細胞変性がおこることや背景の好中球・リンパ球の増加により異型細胞を見つけづらくなってしまうことである。これらの溶血剤の利点・欠点をよく理解し、それぞれの検体に適した標本作製を行うことがより重要であると考えます。

今回の検討を踏まえ、溶血剤の使用方法を再検討し、出来れば血液成分の多い沈渣におけるセルブロック作製時に応用したいと考える。

☆.°.☆ Memo ☆.°.☆

スライドカンファレンス

座長：岩橋 吉史（和歌山県立医科大学 人体病理学教室/病理診断科）

栗山 行央（紀南病院 中央臨床検査部）

（1）子宮頸部

出題者：稲垣 充也（公立那賀病院・臨床検査科）

年齢：70 歳代

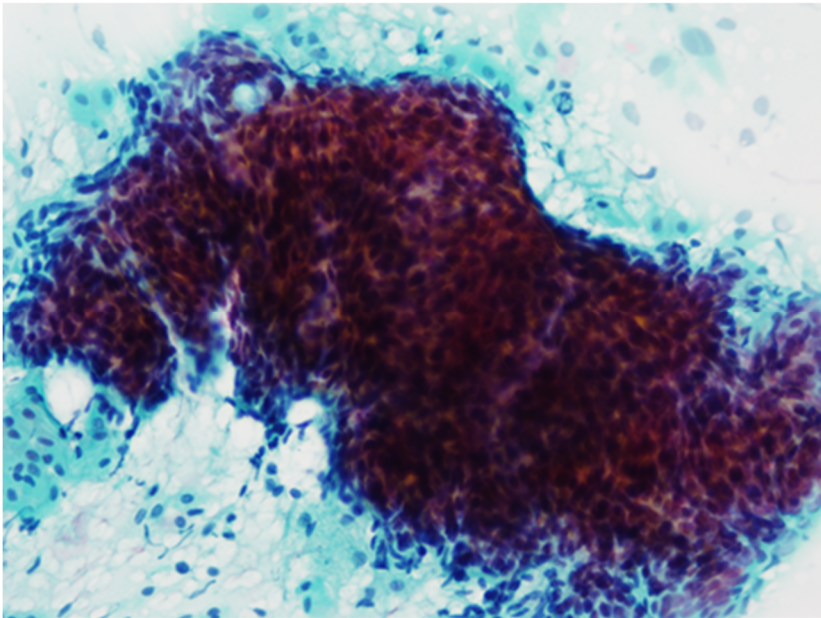
性別：女性

臓器：子宮頸部

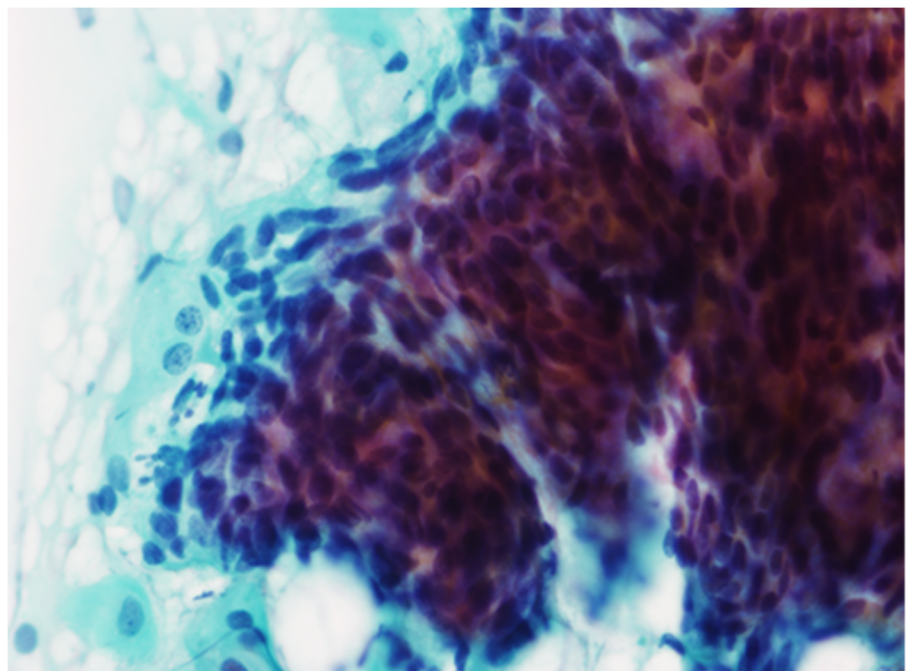
採取方法：ブラシ

標本作製法：従来法

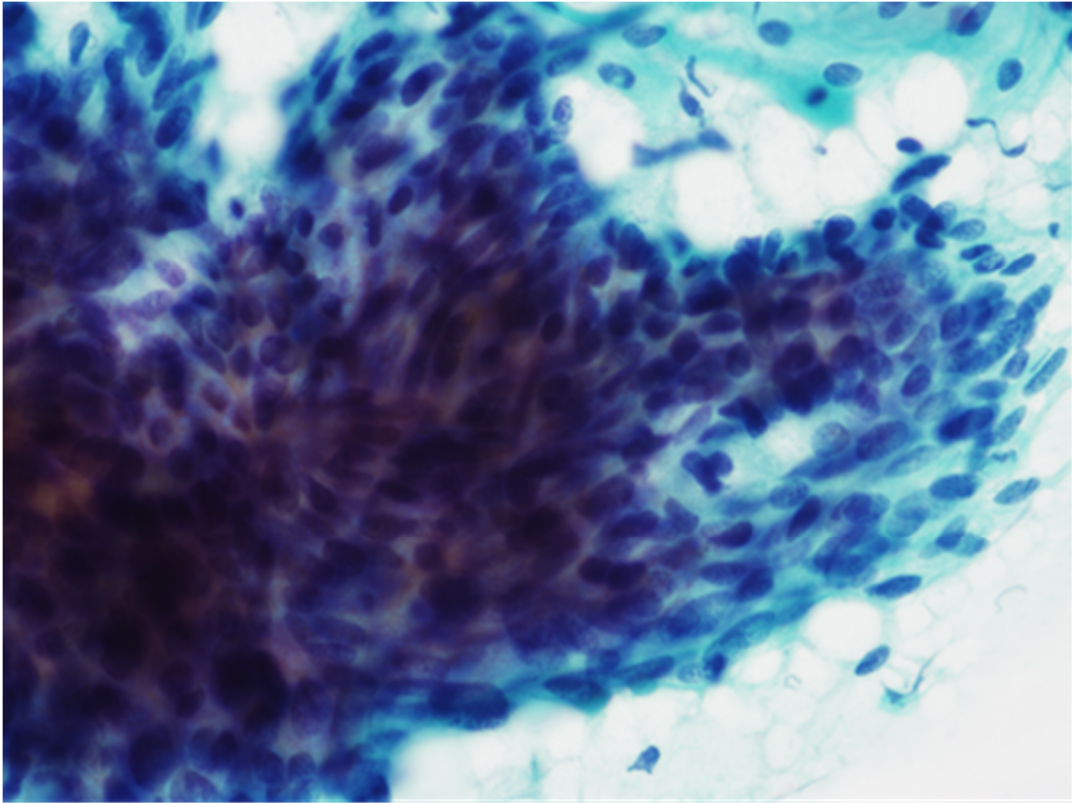
臨床経過：2014 年に子宮頸癌検診のため当院で子宮頸部擦過細胞診を施行し、ASC-US の結果であった。その後半年に一回、子宮頸部細胞診による経過観察が行われ、陰性と ASC-US が繰り返された。2017 年の子宮頸部細胞診で ASC-H の結果となり、子宮頸部生検が行われたが、LSIL であった。その後も経過観察が行われ、ASC-H と陰性を繰り返していた。2019 年 5 月に採取された子宮頸部擦過細胞診を供覧する。



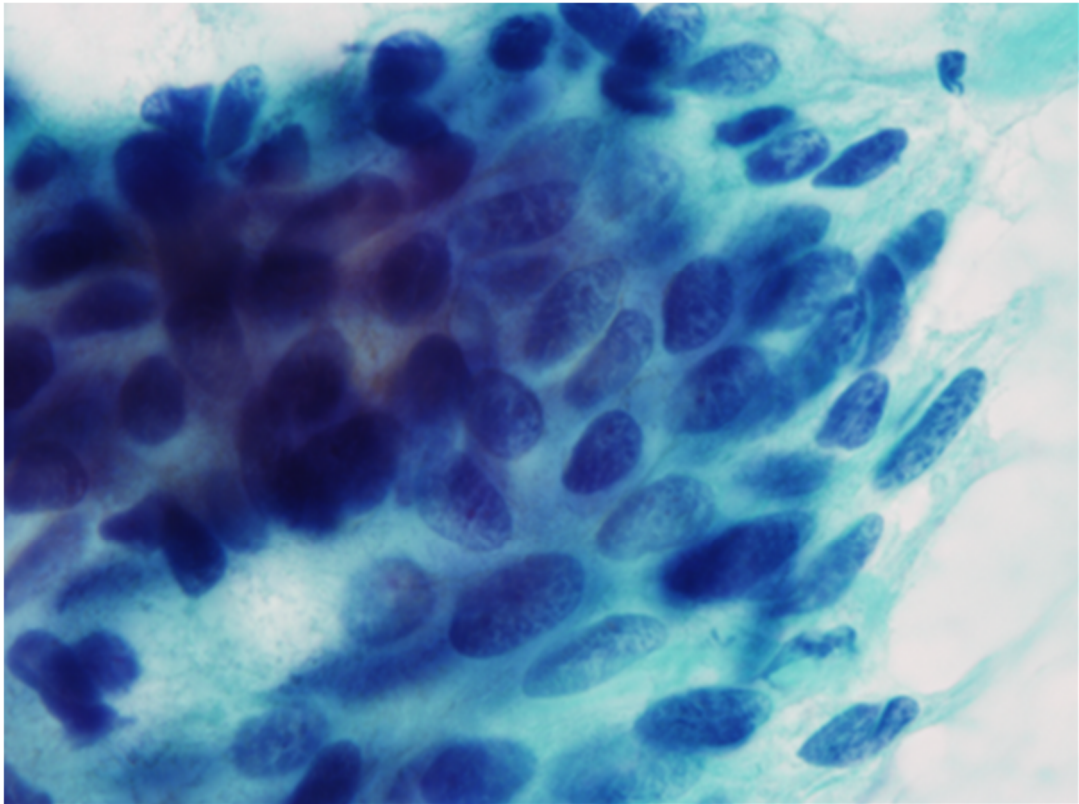
(対物 20 倍 Papanicolaou 染色)



(対物 40 倍 Papanicolaou 染色)



(対物 40 倍 Papanicolaou 染色)



(対物 100 倍 Papanicolaou 染色)

バーチャルスライド閲覧できます。(詳しくは p8)
Username、Password とともに「wsc」(すべて小文字)



閲覧



事前投票

スライドカンファレンス

座長：岩橋 吉史（和歌山県立医科大学 人体病理学教室/病理診断科）

栗山 行央（紀南病院 中央臨床検査部）

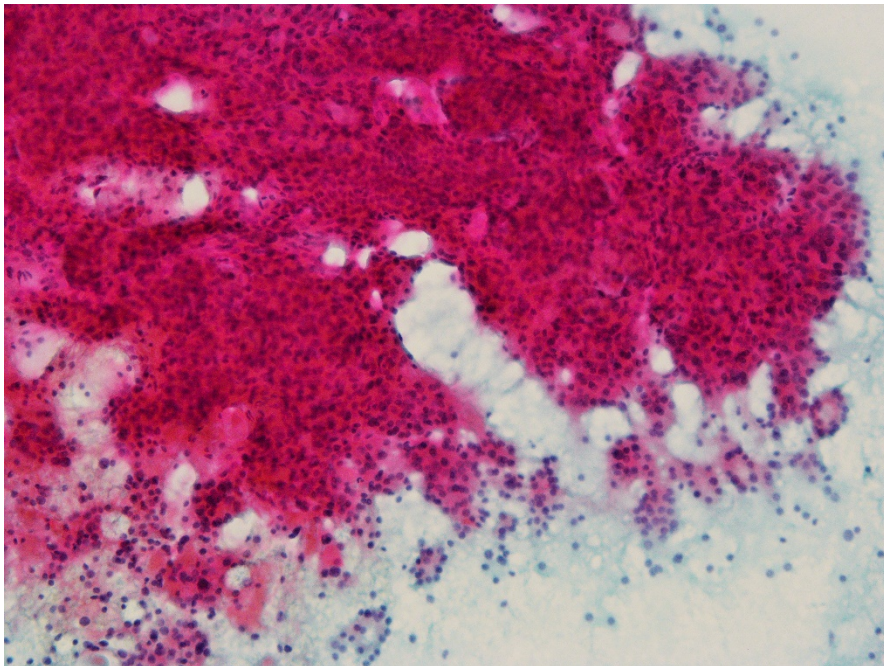
(2) 甲状腺

出題者：田中 真理（和歌山労災病院 中央検査部）

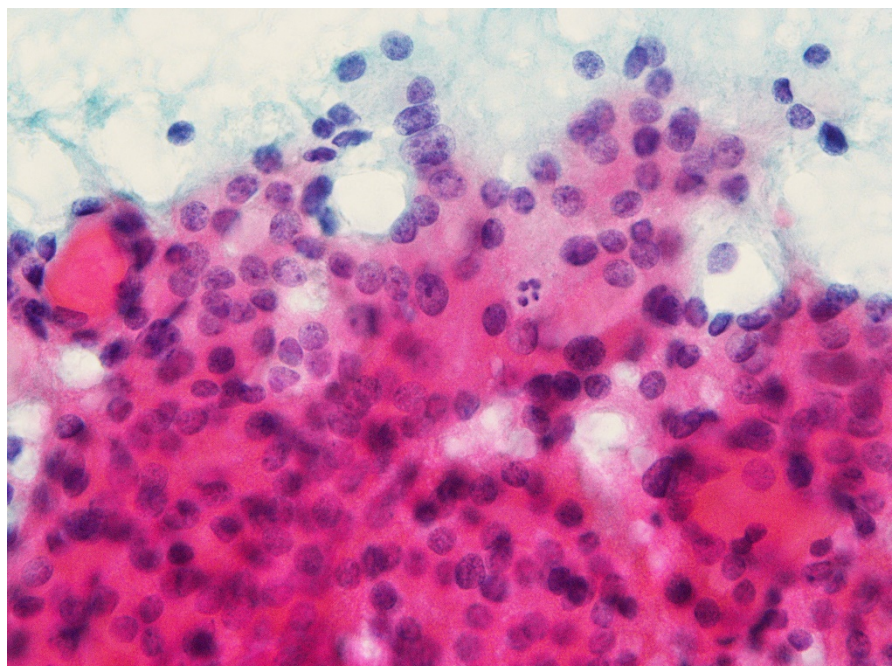
年齢：70 歳代 性別：女性

臓器：甲状腺 採取方法：穿刺吸引細胞診 標本作製法：直接塗抹法

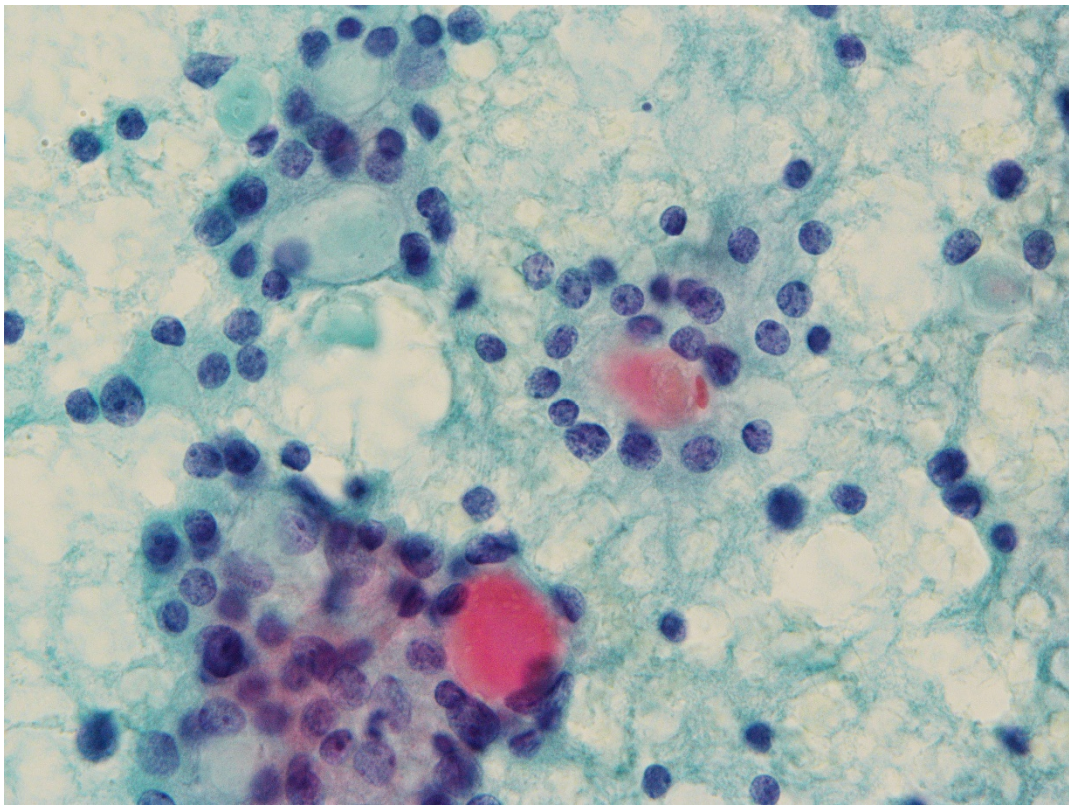
臨床経過：検診にて甲状腺右葉に腫瘤を指摘され近医受診。超音波検査にて甲状腺右葉に 23×14mm の内部不均一な腫瘤が認められたため当院耳鼻科へ紹介受診となり、穿刺吸引細胞診が施行された。



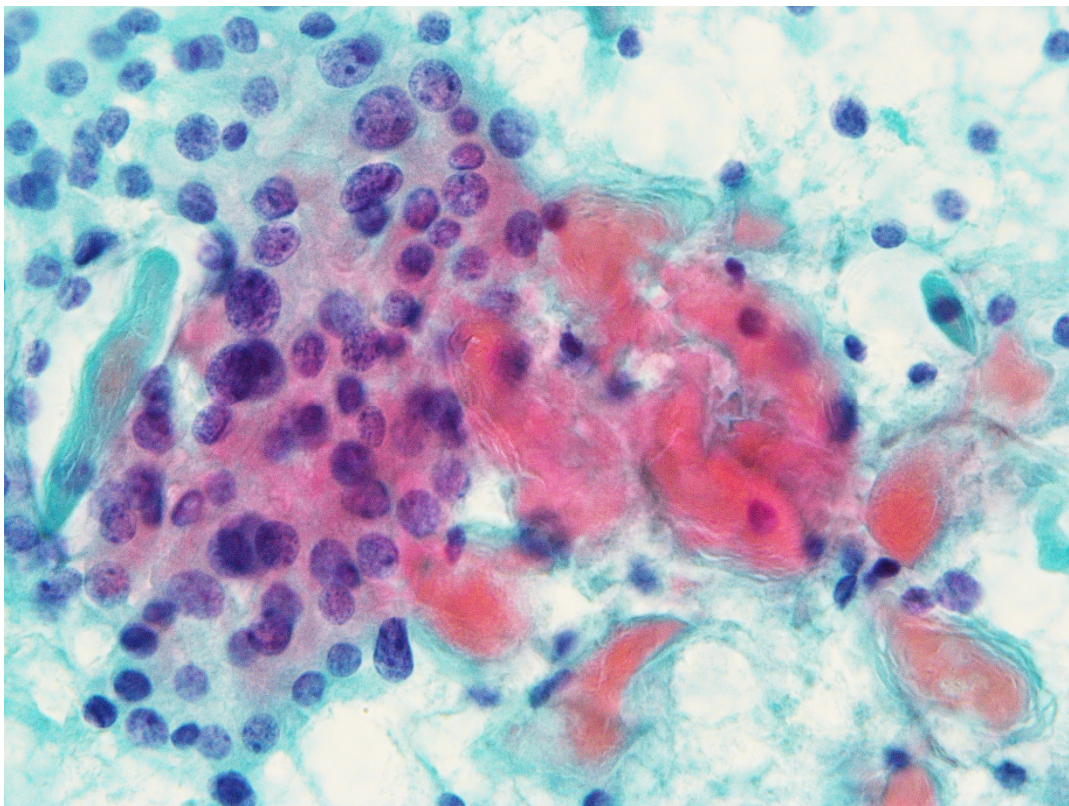
(対物 10 倍 Papanicolaou 染色)



(対物 40 倍 Papanicolaou 染色)



(対物 40 倍 Papanicolaou 染色)

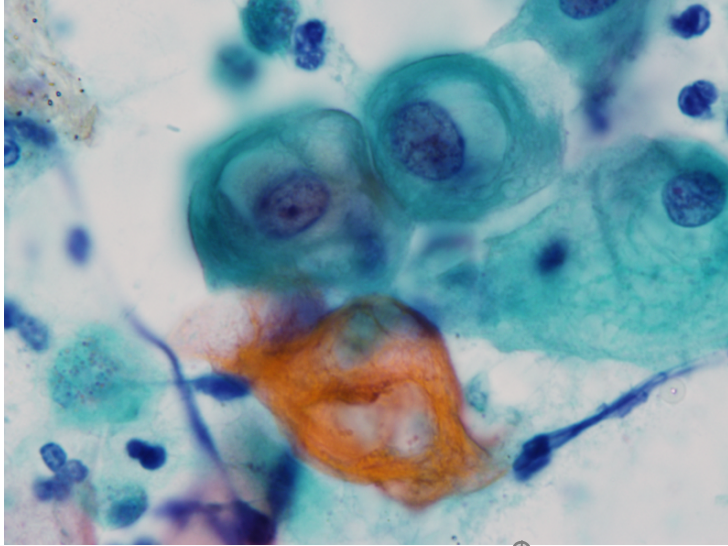


(対物 40 倍 Papanicolaou 染色)

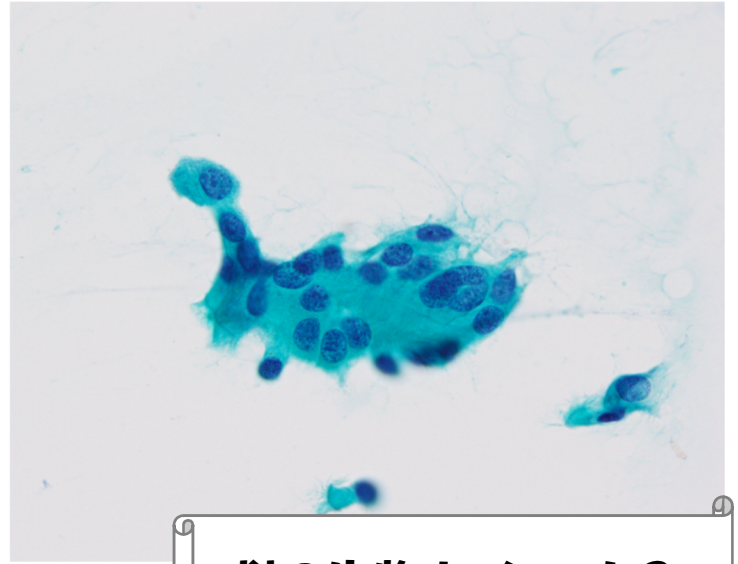
バーチャルスライド閲覧できます。(詳しくは p8)
Username、Password とともに「wsc」(すべて小文字)



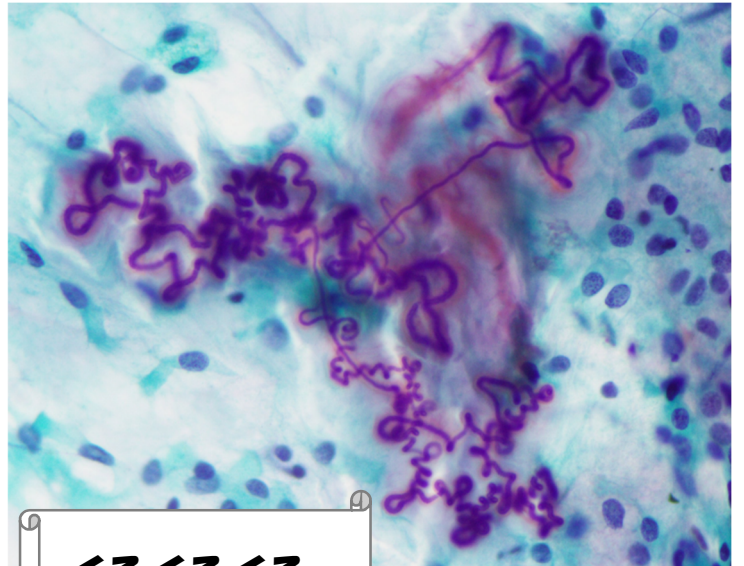
フォトコンテスト



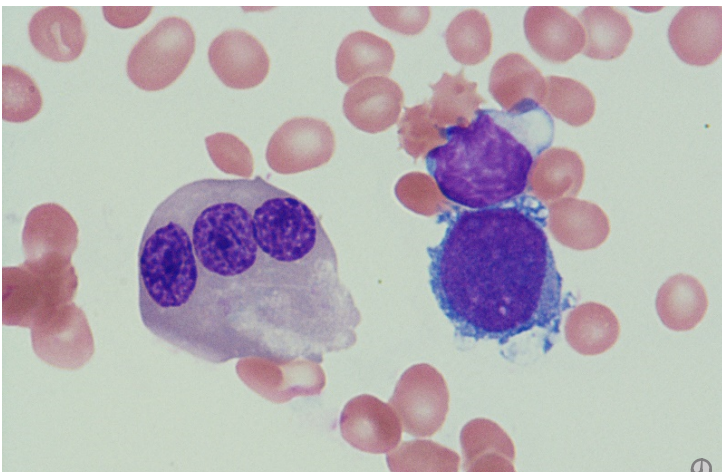
ビックリ !!



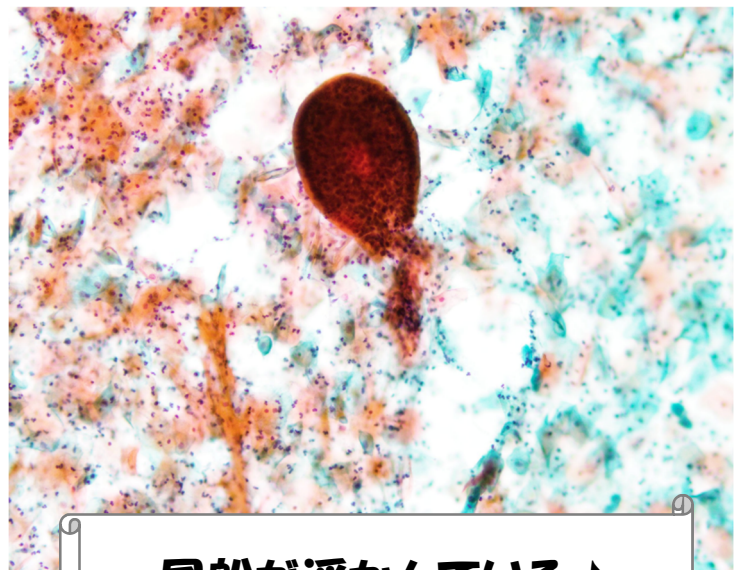
謎の生物ネッシー! ?



くるくるくる



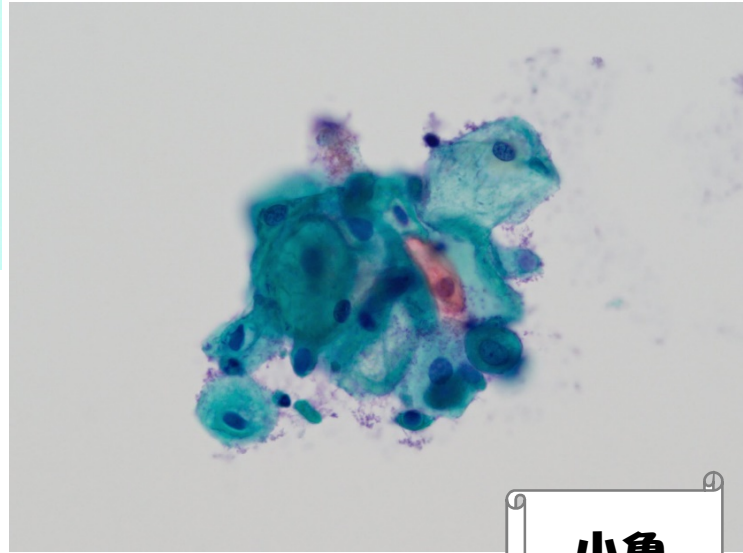
ピンクだけどイトルグリーンメン



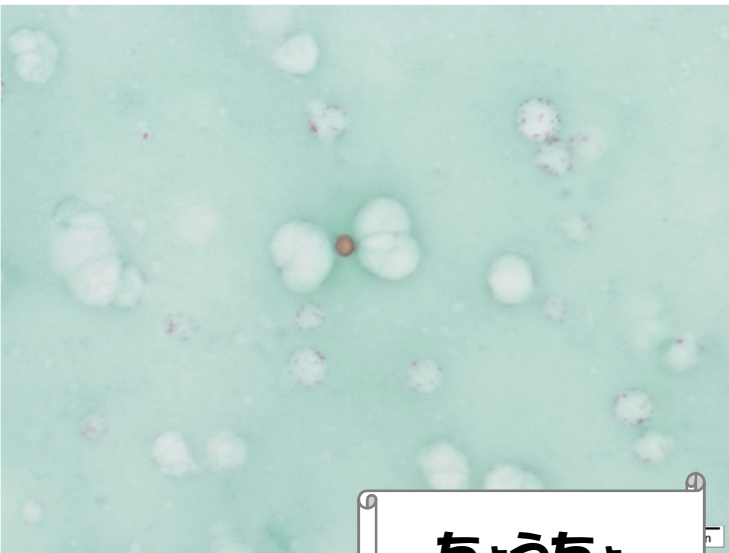
~風船が浮かんでいる♪~



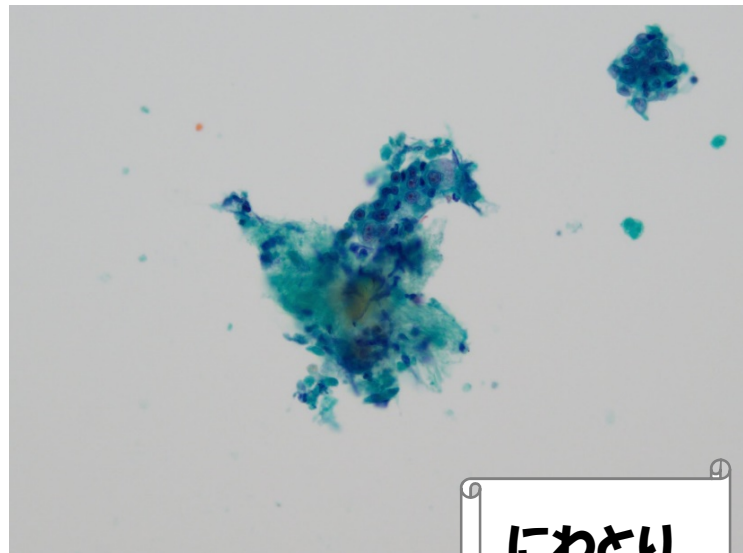
2018年6月3日
ソユーズ無事帰還・金井宇宙飛行士



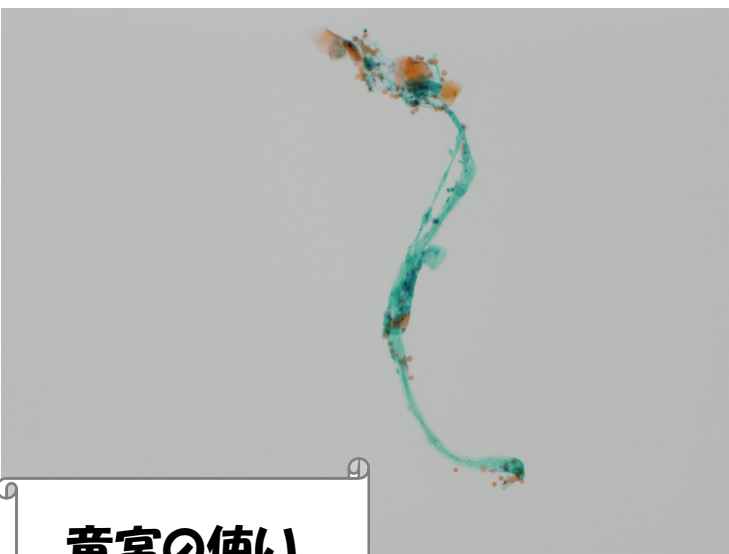
小亀



ちょうちょ



にわと



竜宮の使い

【2019(平成 31、令和元)年度 和歌山臨床細胞学会活動報告】

- 1月10日 平成31年 第1回和歌山臨床細胞学会執行部会(18:30~19:30)
- 第44回和歌山臨床細胞学会学術集会について
 - 日程の確認 ・当日タイムスケジュールおよび会場について
 - 当日スタッフについて
 - 第45回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会について
(症例検討会)
腎盂尿管カテーテル尿 80代男性(紀南病院)
- 2月2日 第44回 和歌山臨床細胞学会総会・学術集会(12:00~16:20)
- 学術集会長：峰 高義 CT(紀南病院中央臨床検査部)
- 会場：紀南病院講堂
- 特別講演 [子宮内膜病変—細胞診からのアプローチ]
前田 宜延先生(富山赤十字病院病理診断科病理診断科部長)
- 教育講演 [髄液細胞診による中枢神経系病態へのアプローチ]
大田 喜孝先生(国際医療福祉大学福岡保健医療学部医学検査学科臨床教授)
- 参加人数 44名
- 3月26日 平成31年 第2回和歌山臨床細胞学会執行部会(18:30~19:30)
- 第44回和歌山臨床細胞学会学術集会について
 - 会計報告
 - 第45回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会について
 - プログラムについて
- 3月30日 和歌山県細胞検査士会勉強会(11:00~15:00)
- 場所：和歌山県立医科大学付属病院中央検査部病理検査室及び技師控室
- 講師：木下勇一先生(和歌山県立医科大学付属病院中央検査部病理診断部門)
- 内容：網膜の臨床と細胞診
- 午後 症例検討会
- 5月12日 2019 LOVE49 活動 子宮頸がん検診啓発活動について
- 場所：ビッグホエール(エバグリーンの健康フェアに合同参加)
- パンフレットの配布(600部)、アンケート、顕微鏡、ポスター展示
- 紀南地区(4月27日) 田辺市カッパーセンター
- 5月16日 令和元年 第3回和歌山臨床細胞学会執行部会(18:30~19:30)
- 第45回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会について
学術集会長の吉田さんより説明
 - 第45回和歌山臨床細胞学会学術集会について
 - 会場 日本赤十字社和歌山医療センター多目的ホール
 - 事務局より
 - 会費未納者について
請求書が宛先不明で帰って来る場合は執行部のMLで行方を尋ねる
会費は納めているが学会に5年間不参加の場合、5年目の学会の直前に通知し、それ以後も不参加であれば除名とする
 - 子宮の日の活動報告
 - その他
 - 第46回から和歌山臨床細胞学会学術集会の日程を1週間早くする
(症例検討会)
尿(紀南病院)
- 6月22日 和歌山県細胞検査士会勉強会(12:00~16:30)
- 場所：和歌山労災病院(大会議室)
- 講師：三村 明弘先生(大阪労災病院中央検査部)
- 内容：泌尿器細胞診の講義、鏡検実習
- 懇親会(17:30~)
- 7月11日 令和元年 第4回和歌山臨床細胞学会執行部会(18:30~19:30)

1. 第45回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会について
吉田さんより学会準備の進捗状況を説明
 - ・学会当日天候不順の場合の確認
 - ・協賛・当日タイムスケジュール、役割分担
2. 第45回和歌山臨床細胞学会学術集会について
特別講演 [甲状腺細胞診 良性か濾胞性腫瘍疑いかを見分けよう]
亀山香織先生(慶應義塾大学病院病理病理診断科准教授・診断科部長)
教育講演 [HPVと子宮頸部病変について]
大河戸光章先生(杏林大学保健学部臨床検査技術学科准教授)
3. 第46回和歌山臨床細胞学会学術集会長について
小島史好先生(和歌山県立医科大学人体病理学教室) 承諾

8月29日 令和元年 第4回和歌山臨床細胞学会執行部会(18:30~19:30)

1. 第45回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会について
 - ・受付、ランチョンセミナー、会場設営、スライドカンファレンス賞品
2. 第45回和歌山臨床細胞学会学術集会について
 - ・スライドカンファレンスについて
那賀病院—子宮頸部、労災病院—甲状腺

9月8日 第45回 日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会

—あなたの知らない細胞診の世界—

会場：和歌山県 JA ビル 和ホール

学術集会会長：吉田 恵 CT (和歌山労災病院中央検査部)

副会長：村田 晋一先生 (和歌山県立医科大学人体病理学教室教授)

特別講演 [あなたの知らない甲状腺の世界]

近藤哲夫先生(山梨大学医学部人体病理学講座 教授)

ランチョンセミナー [あなたの県は大丈夫？婦人科健診の近畿6府県対比]

雑賀 公美子先生(国立研究センターがん対策情報センター)

参加 342名

10月17日 令和元年 第6回和歌山臨床細胞学会執行部会 (18:30~19:15)

1. 第45回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会について
 - ・収支について・アンケート結果・反省点について
2. 第45回和歌山臨床細胞学会学術集会について
 - ・時間配分、タイムスケジュール・係り・会場設営について
3. 和歌山臨床細胞学会マークについて
4. カメラの購入について
 - ・α6100(SONY)—承認

12月5日 令和元年 第7回和歌山臨床細胞学会執行部会(18:30~19:15)

1. 第45回和歌山臨床細胞学会学術集会について
学術集会長の真谷さんより説明
 - ・講師の先生の宿泊・産婦人科医の単位申請について
 - ・スライドカンファレンスの時間変更・当日役割について
2. 子宮の日について(和歌山臨床細胞学会協賛)
令和2年4月19日 エバグリーン健康フェアに参加
3. 理事について(提案)
副会長は吉田さんから稲垣さんへ、吉田さんは理事へ
大石さんの定年に伴い木下さんが理事に

【2020(令和2)年度 活動予定】

2月 1日 第45回和歌山臨床細胞学会総会・学術集会

学術集会長：真谷 亜衣子（日本赤十字社和歌山医療センター）

会場：日赤医療センター多目的ホール

4月19日 2020 LOVE49 子宮の日の活動

場所：ビッグホエール、エバグリーンの健康祭りフェア合同参加

- ◇ 和歌山県細胞検査士勉強会は年2回開催予定
- ◇ 執行部会は偶数月の第3木曜日 18:30～
和歌山県立医科大学研究棟 7階 病理診断科にて開催予定

役員(令和2年1月1日現在)

(敬称略、五十音順)

会長	村田 晋一	和歌山県立医科大学 人体病理学教室 教授
副会長	井篁 一彦	和歌山県立医科大学 産科婦人科学教室 教授
	吉田 恵	和歌山労災病院 中央検査部
理事	稲垣 充也	公立那賀病院 臨床検査科 技師長補佐
	今井 秀彰	桜ヶ丘病院 婦人科医長
	大石 博晃	和歌山県立医科大学附属病院 中央検査部技師長
	尾崎 敬	紀南病院 中央臨床検査部部長
	真谷 亜衣子	日本赤十字社和歌山医療センター 病理診断科部 病理課長
	田中 真理	和歌山労災病院 中央検査部
	谷本 敏	和歌山労災病院 副院長
	坪田 ゆかり	和歌山労災病院 病理診断科部長
	土居 淳子	和歌山市医師会成人病センター
	峰 高義	紀南病院 中央臨床検査部 主任
	吉田 隆昭	日本赤十字社和歌山医療センター 産婦人科部長
	監事	岡田 雄一
宮木 康夫		海南医療センター 検査部長



Cytology Total Solution

細胞診のトータルソリューション

細胞採取から標本作製、
さらに染色からスクリーニング鏡検までをサポート

POINT1

従来法に比べ病変検出感度が上昇

POINT2

標本作製の自動化による作業効率の向上

POINT3

独自の標本作製技術による安定した高品質な細胞診標本の作製

■販売名:ThinPrep2000プロセッサ 届出番号:13B1X10179001001 ■販売名:ThinPrep5000プロセッサ 届出番号:13B1X10179001002 ■販売名:ThinPrepイメージングシステムDuo 届出番号:13B1X10179001008 ■販売名:ThinPrepインテグレートイメージャ 届出番号:13B1X10179001003 ■販売名:コンパスステイナー 届出番号:13B1X10179001007

ホロジックジャパン株式会社

〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル TEL.03-5804-2340(代) FAX.03-5804-2321

Hologic, ThinPrepはHologic, Inc.およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

©2020 Hologic, Inc. All rights reserved.

HOLOGIC[®]
The Science of Sure

第 45 回和歌山臨床細胞学会総会学術集会

《事務局》

和歌山県立医科大学・人体病理学教室
〒641-8509 和歌山市紀三井寺 811-1
電話: 073-441-0635 FAX: 073-444-5777
メール: wsc@wakayama-med.ac.jp
ホームページ: <http://wsc.umin.jp>